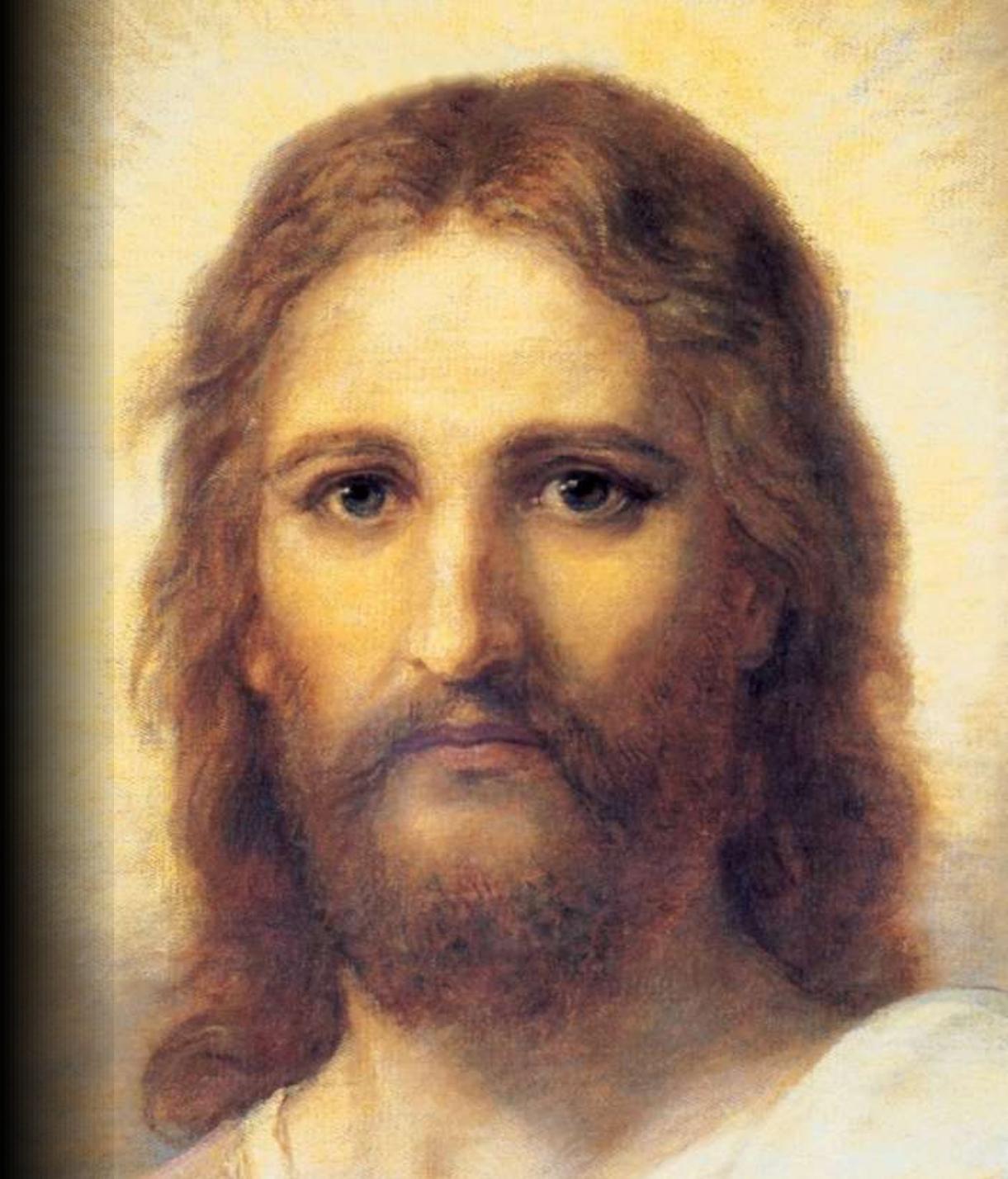


中国の文化Ⅸ 第8回

# 魏晋南北朝時代(下)

東アジアの世界宗教となった仏教



国や民族の壁を越えて、人々に普遍的な救済を与える世界宗教は、伝播の過程でその姿や言葉を変えていった。

キリスト教のイエスの姿は、右図のように金髪、碧眼に描かれることが多いが、実際はどのような姿をしていたのだろうか？



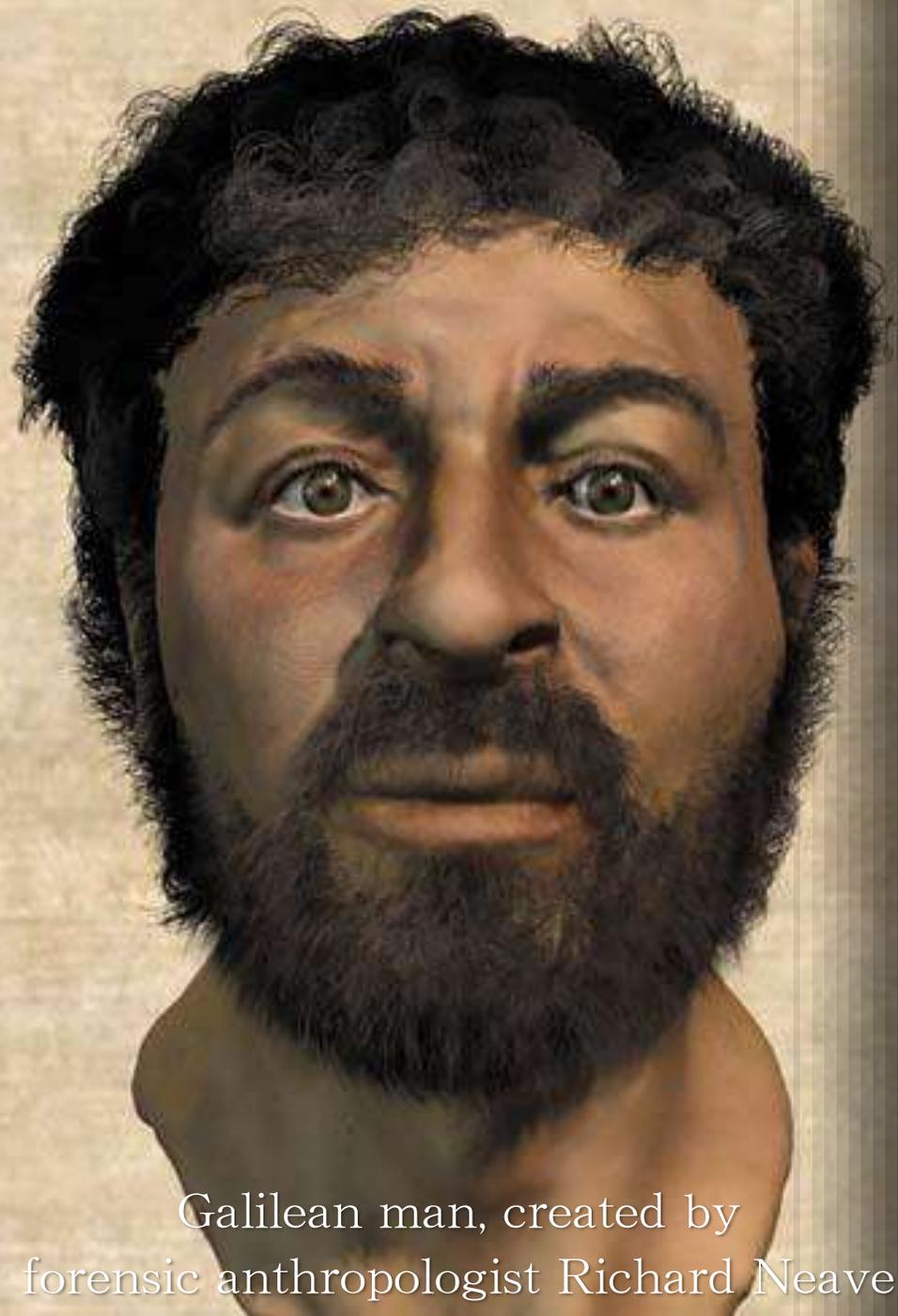
英BBC放送は、二〇〇一年、  
「神の子 Son of God」という番組の  
中で法医学の技術を使い、イエスと  
同時代のユダヤ人の遺骨からその生  
前の姿を再現した。当時のユダヤ人  
はどのような姿をしていたのか？

イエス生誕の地(現イスラエル)

## 中東のユダヤ人が生んだ世界宗教

イエスは紀元前七年ないし前四年にユダヤの町ベツレヘム（パレスチナ）で生まれた。

ヨーロッパの宗教画では、金髪碧眼に描かれるイエスだが、その出身はユダヤ人で、西南アジアのアラブ人と同じセム語系諸族に属していた。

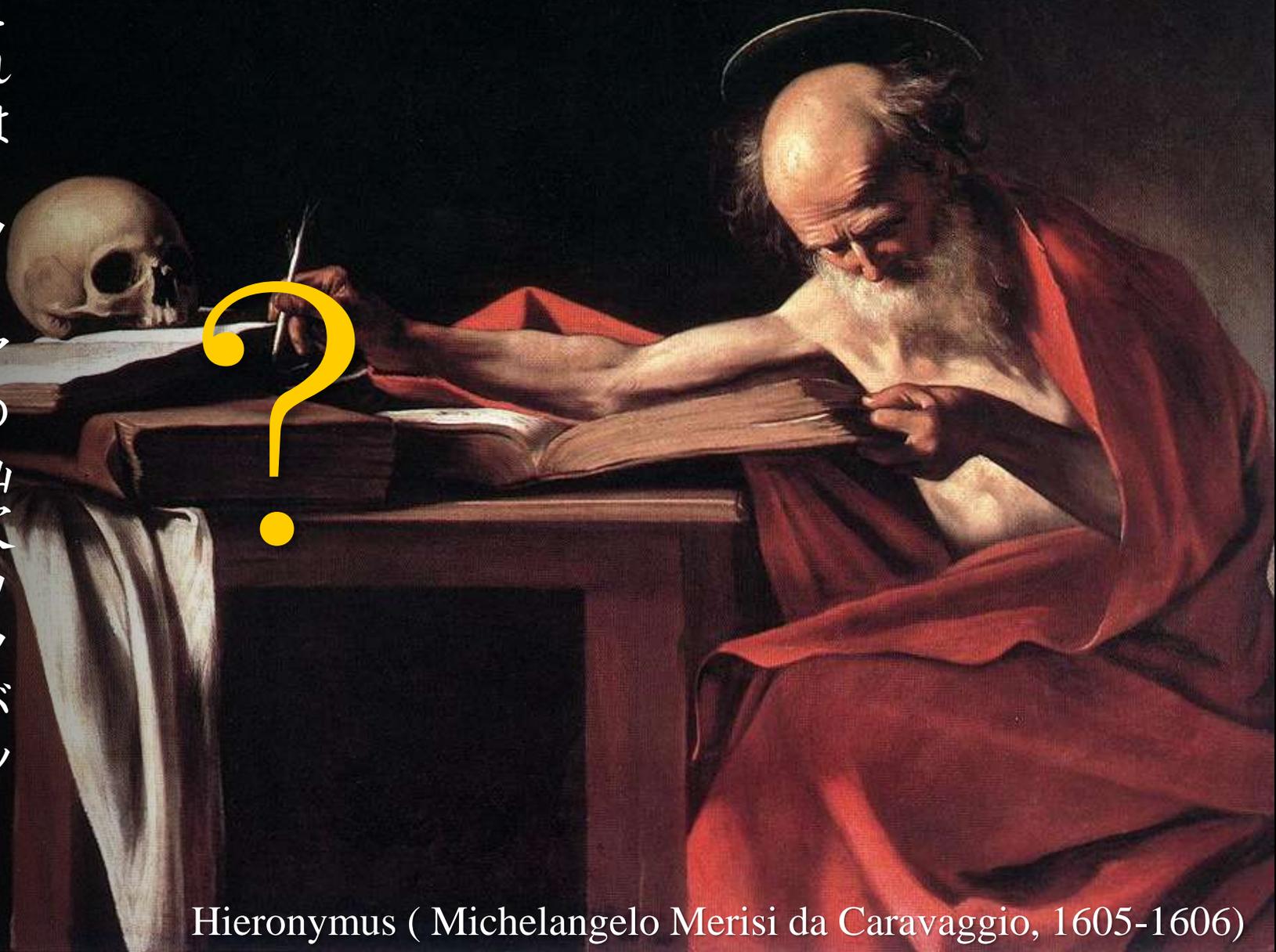


Galilean man, created by forensic anthropologist Richard Neave



19世紀ロシアの画家クラムスコイ (Ivan Kramskoy)が描いた「砂漠のキリスト」(1872)

これはイタリアの画家カラバツ  
ジョがローマ時代の学者ヒエロニム  
ス(三四七?~四二〇)を描いたもので  
ある。  
ヒエロニムスはヨーロッパでのキ  
リスト教の研究に大きな業績を残し  
たが、この絵の中で彼は何をしてい  
るのか？



Hieronimus ( Michelangelo Merisi da Caravaggio, 1605-1606)

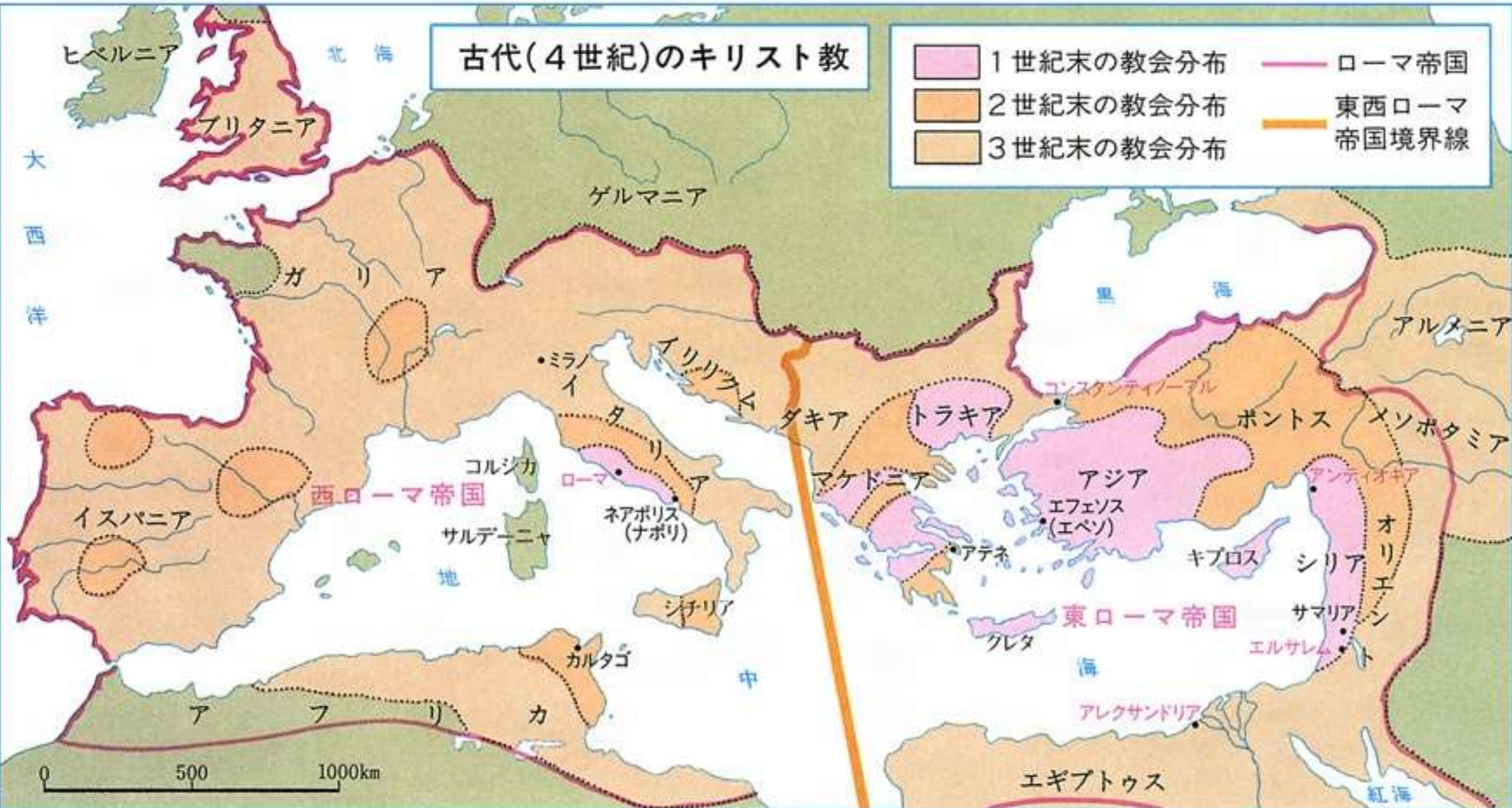
聖書の正確な翻訳のために

ローマ帝国ではキリスト教は長く異国の邪宗として弾圧されていたが、四世紀初めこれを承認し、四世紀末には国教化した。

ところが聖書はもともとヘブライ語やギリシア語で書かれていたため、その正確な翻訳が必要となった。ヒエロニムスはイエス降誕の地ベツレヘムに渡り、これらの言語を学んで聖書の翻訳を行った。

# 古代(4世紀)のキリスト教

- 1世紀末の教会分布
- 2世紀末の教会分布
- 3世紀末の教会分布
- ローマ帝国
- 東西ローマ帝国境界線



ジャパンナレッジ『日本大百科全書』より

これはイタリアの彫刻家ミケランジェロが作ったモーセ像である。  
モーセは前十三世紀ごろのイスラエル民族の指導者であり、神との契約により「十戒」を授かったことで知られる人物だが、なぜ頭に角が生えているのか？



Michelangelo's statue of Moses (c. 1513-15)  
in the Church of San Pietro in Rome



## 誤訳が生んだモーセの角

前述のヒエロニムスがラテン語に  
翻訳した聖書はウルガータ(Vulgata)  
と呼ばれ、後年、カトリック教会の  
公認訳書となった。

ところがその中に誤訳(ヘブライ語  
の「輝く」を「角」と訳した)があっ  
たため、ヨーロッパ中のモーセ像は  
頭に角を生やすことになった。

Michelangelo's statue of Moses (c. 1513-15)  
in the Church of San Pietro in Rome



## 東アジアの世界宗教となった仏教

ヒエロニムスがヘブライ語やギリシア語で書かれた聖書の原典をラテン語に翻訳していたころ、中国では西域僧の鳩摩羅什(クマーラジーヴァ、三四四〜四一三)が北朝の後秦の都・長安に招かれ、仏教經典の翻訳に当たっていた。

サンスクリット語で書かれた仏教經典が、東アジアの共通語である漢語に翻訳されたことにより、南北朝から隋、唐時代にかけて、仏教は東アジアの世界宗教へと発展していく。

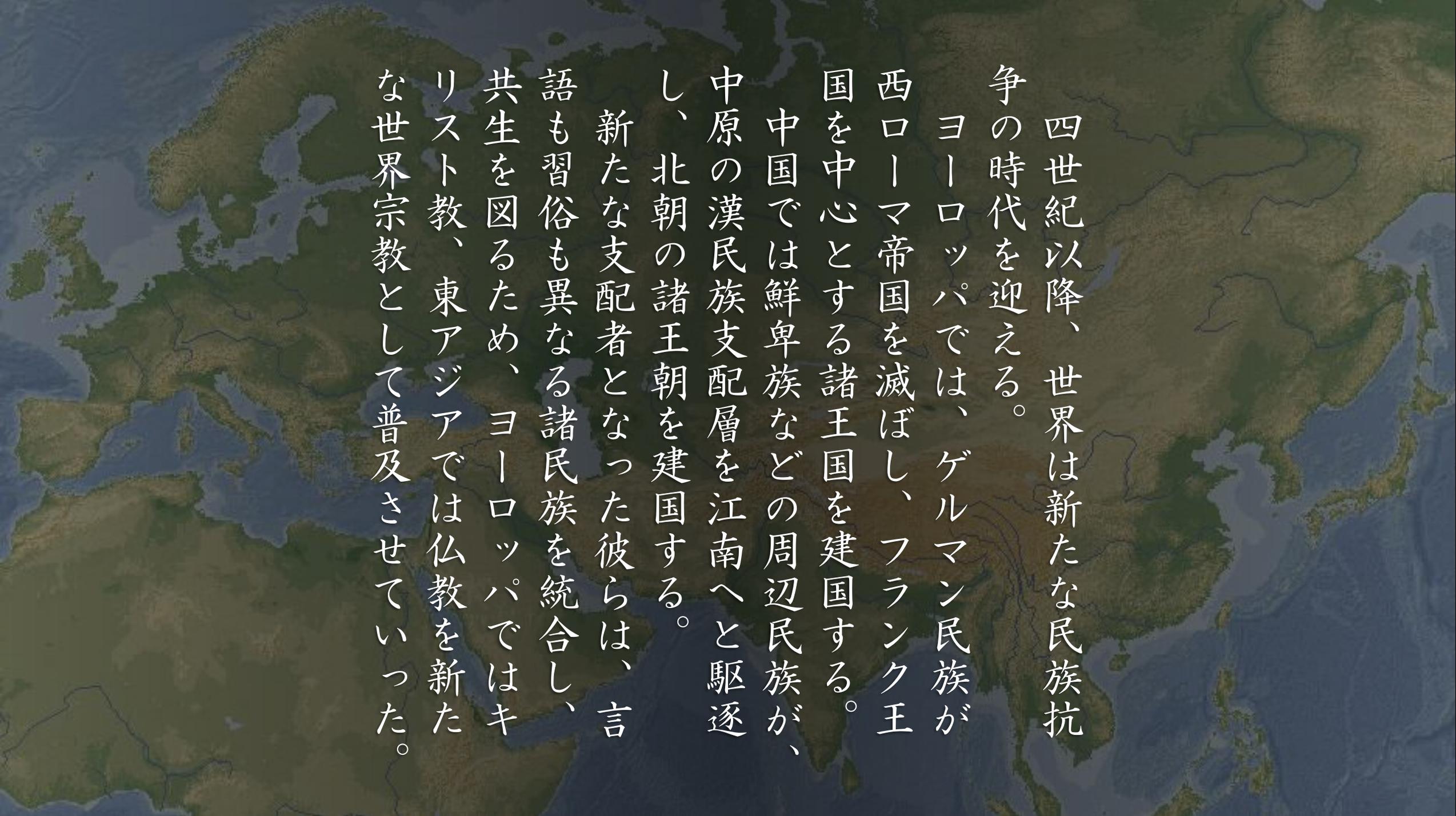
では、なぜこの時代に仏教經典が盛んに翻訳されたのであろうか。

## 講義内容

第四節 東アジアの世界宗教となった仏教  
～民族間の葛藤から共生へ



# 第四節 “対抗文化”としての仏教



四世紀以降、世界は新たな民族抗争の時代を迎える。

ヨーロッパでは、ゲルマン民族が西ローマ帝国を滅ぼし、フランク王国を中心とする諸王国を建国する。

中国では鮮卑族などの周辺民族が、中原の漢民族支配層を江南へと駆逐し、北朝の諸王朝を建国する。

新たな支配者となった彼らは、言語も習俗も異なる諸民族を統合し、共生を図るため、ヨーロッパではキリスト教、東アジアでは仏教を新たな世界宗教として普及させていった。

ローマ共和制 前509～前31

# 民族抗争の時代

ローマ帝国  
前27～395



西ローマ帝国  
395～476

ゲルマン民族の大移動  
(4世紀末～6世紀末)

東ローマ帝国  
395～1453

フランク王国  
395～843

前漢  
202BC～8BC

新 8BC～25AD

後漢  
25～220

魏  
220～265

蜀 221～  
263

呉  
229～280

西晋 265～316

五胡十六国  
316～439

東晋  
318～420

五胡の侵入  
北魏 (4世紀初～6世紀末)  
439～534

西魏  
北周

東魏  
北齊

梁 502～557

陳 557～589

隋 589～618

唐 618～907

1600BC  
1500BC  
1400BC  
1300BC  
1200BC  
1100BC  
1000BC  
900BC  
800BC  
700BC  
600BC  
500BC  
400BC  
300BC  
200BC  
100BC  
0  
100  
200  
300  
400  
500  
600  
700  
800  
900  
1000  
1100  
1200  
1300  
1400  
1500  
1600  
1700  
1800  
1900  
2000

殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代 770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

魏 220-265 蜀 221-263 吳 222-280

晋 265-316

五胡十六国時代

東晋 317-420

北朝 439-589

南朝 420-589

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

遼

北宋 960-1127

金 1115-1234

南宋 1127-1279

元 1271-1368

明 1368-1644

清 1616-1912

中華民国 1912-1949

中華人民共和国 1949-

# 漢民族の華夷思想による外来宗教＝仏教の排斥

後漢の明帝、西域から仏典と法師を請来(67年)

華夷思想

Chinese ethnocentrism

# 北朝＝異民族王朝による仏教導入

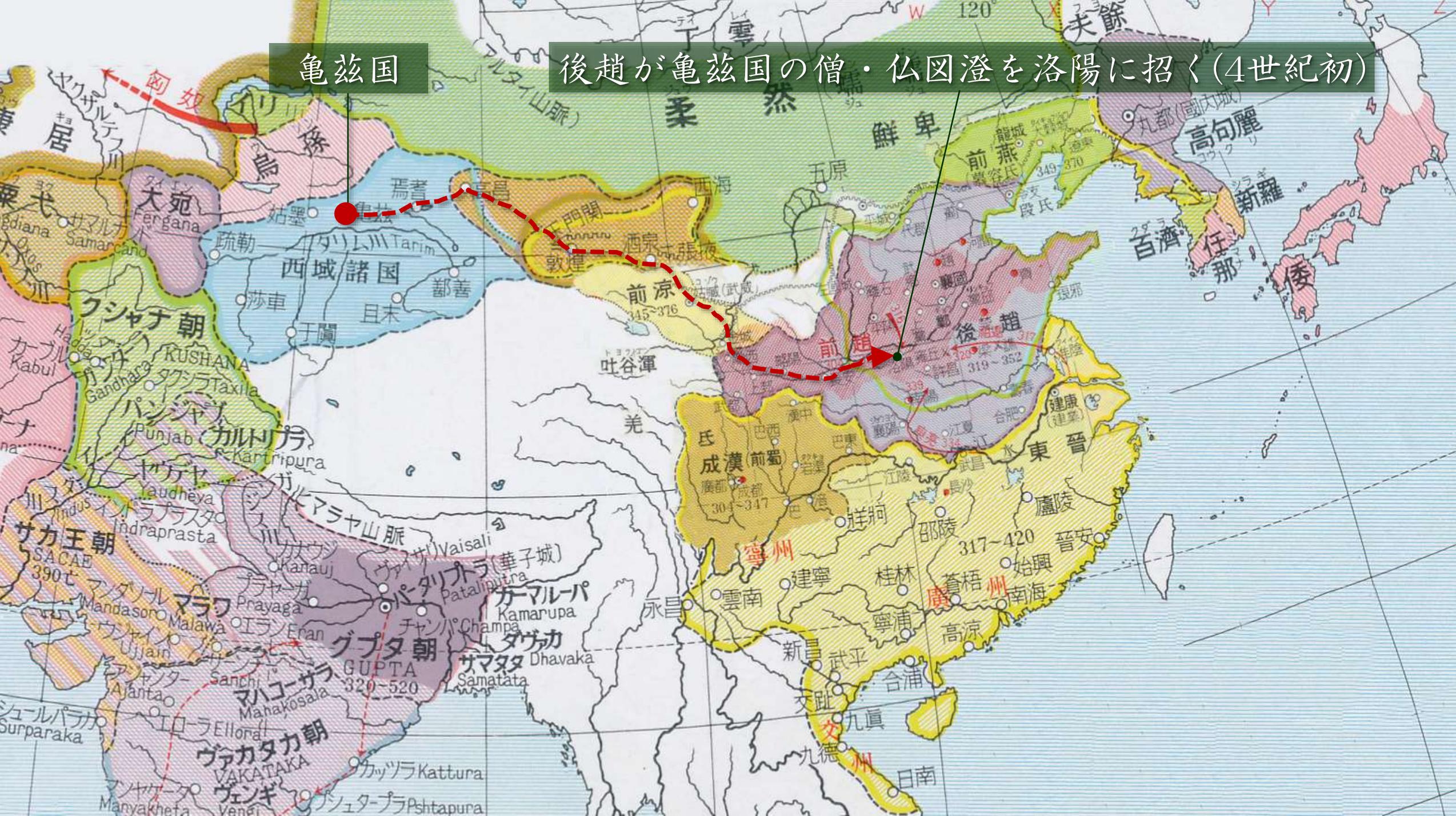
1600BC	殷 1600BC頃-1046BC	
1500BC		
1400BC		
1300BC		
1200BC		
1100BC		
1000BC	周 1046BC-771BC	
900BC		
800BC		
700BC		
600BC	春秋戦国時代 770BC-221BC	
500BC		
400BC		
300BC		
200BC	秦 221BC-207BC	
100BC		
0	漢 206BC-220AD	
100		
200	魏 220-265	蜀 221-263
300	晋 265-316	呉 222-280
400	五胡十六国時代	東晋 317-420
500	北朝 439-589	南朝 420-589
600	隋 581-619	
700		
800	唐 618-907	
900		
1000	五代十国 907-960	
1100	遼	北宋 960-1127
1200	金 1115-1234	南宋 1127-1279
1300	元 1271-1368	
1400		
1500	明 1368-1644	
1600		
1700		
1800	清 1616-1912	
1900		
2000	中華民国 1912-1949 中華人民共和国 1949-	

後漢の明帝、西域から仏典と法師を請来(67年)

後趙、亀茲国の僧・仏図澄を国師とする

亀茲国

後趙が亀茲国の僧・仏図澄を洛陽に招く(4世紀初)



# 北朝＝異民族王朝による仏教導入



殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代 770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

魏 220-265

蜀 221-263

呉 222-280

晋 265-316

五胡十六国時代

東晋 317-420

北朝 439-589

南朝 420-589

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

遼

北宋 960-1127

金 1115-1234

南宋 1127-1279

元 1271-1368

明 1368-1644

清 1616-1912

中华民国 1912-1949

中華人民共和国 1949-

後漢の明帝、西域から仏典と法師を請来(67年)

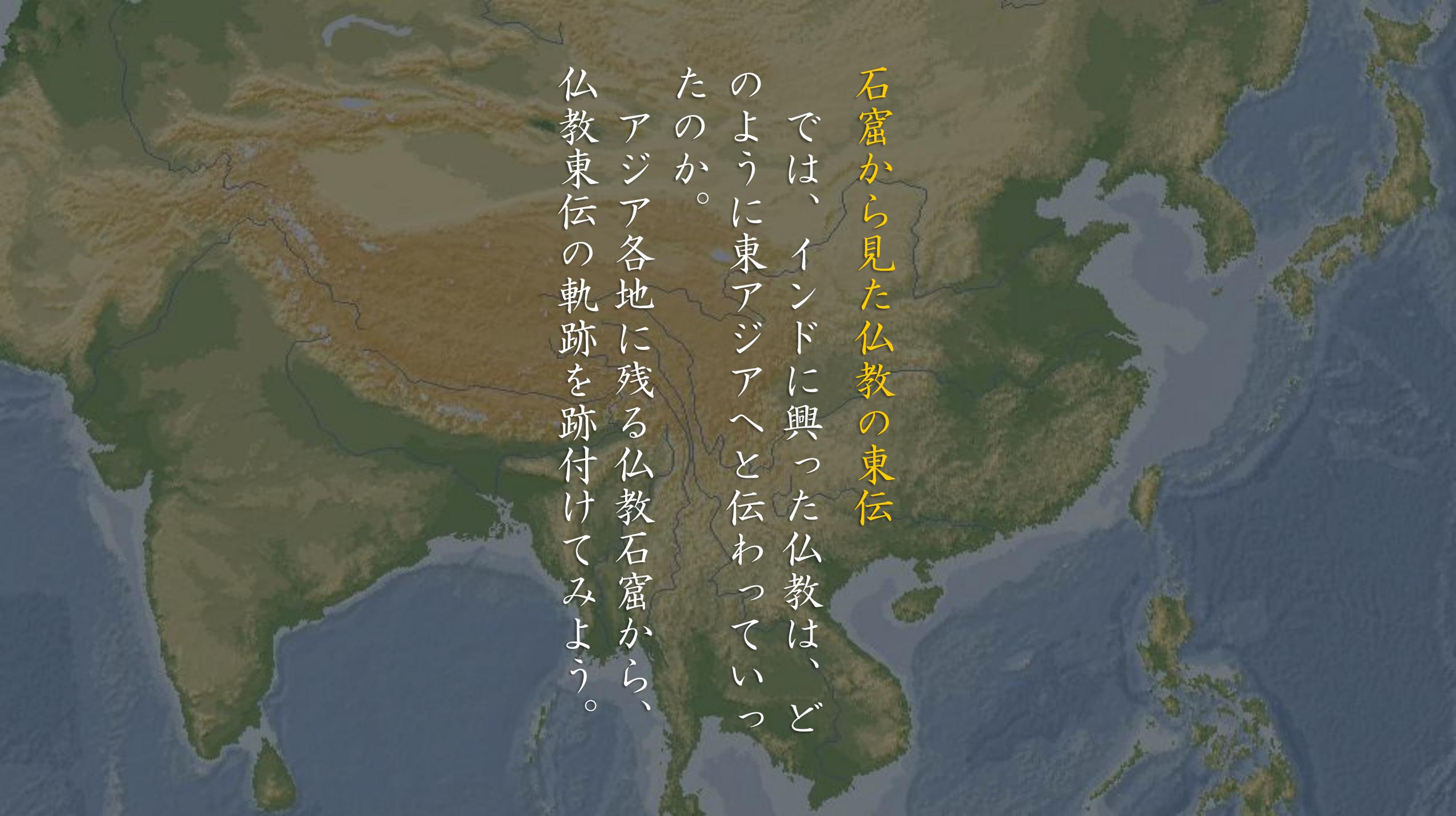
後趙、龜茲国の僧・仏図澄を国師とする

後秦が龜茲国の鳩摩羅什を長安に招く(401年)

亀茲国

後秦が亀茲国の鳩摩羅什を長安に招く(401年)





## 石窟から見た仏教の東伝

では、インドに興った仏教は、どのように東アジアへと伝わっていったのか。

アジア各地に残る仏教石窟から、仏教東伝の軌跡を跡付けてみよう。



アジャンタ石窟



アジャンター石窟(インド、マハラシュートラ州北部、紀元前1世紀以降)

バーミヤーン石窟

アジャンタ石窟

西アジアの仏教遺跡で知られる  
バーミヤーンは、どの国にあるか？





バーミヤーン石窟（アフガニスタン）

# 漢文化への対抗と諸民族の統合・共生のための仏教

前漢 202BC~8BC	
新 8BC~25AD	
後漢 25~220	
魏 220~265	蜀 221~ 263
吳 229~280	
西晋 265~316	
五胡十六国 316~439	東晋 318~420
北魏 439~534	宋 420~479
	齊 479~502
西魏 北周	東魏 北齊
梁 502~557	
陳 557~589	
隋 589~618	
唐 618~907	

敦煌石窟の造営開始(366年頃)

バーミヤーン石窟

敦煌石窟の造営開始(366年頃)



北朝  
(五胡十六国)

南朝  
(東晋)

アジャンタ石窟







漢民族の支配層が江南に逃れ、異民族に支配されるようになった後も、北朝には漢民族の人々が暮らしていた。

彼らは外来の宗教である仏教をどのように考えていたのか？

# 漢文化への対抗と諸民族の統合・共生のための仏教

前漢 202BC~8BC	
新 8BC~25AD	
後漢 25~220	
魏 220~265	蜀 221~ 263
吳 229~280	
西晋 265~316	
五胡十六国 316~439	東晋 318~420
北魏 439~534	宋 420~479
	齊 479~502
西魏 北周	東魏 北齊
梁 502~557	
陳 557~589	
隋 589~618	
唐 618~907	

敦煌石窟の造営開始(366年頃)

北魏で漢人勢力の策略による仏教弾圧(446年)

## 民族間の葛藤

南北朝時代、長江を渡って南朝を築いたのは晋の一部の王族と貴族に過ぎず、大多数の漢民族は北朝の異民族支配下に暮らしていた。

そうした漢民族の中には、北魏の宰相となった崔浩のように、外来の宗教である仏教に反対し、その廃絶を画策する者も現れた（「三武一宗の法難」の最初となった太武帝の廢仏）



資料映像：NHKスペシャル「故宮」より

# 漢文化への対抗と諸民族の統合・共生のための仏教



敦煌石窟の造営開始(366年頃)

北魏で漢人勢力の策略による仏教弾圧(446年)

北魏が国家事業として雲崗石窟造営(460頃)

バーミヤーン石窟

敦煌石窟の造営開始(366年頃)

雲崗石窟の造営開始(460年頃)



北朝  
(北魏)

南朝  
(宋)

アジャンタ石窟





民族間の共生  
北魏の孝文帝は、民族間の共生を  
図るため、仏教のさらなる普及を図  
る一方、西北の平城(大同)から中華文  
明の中心である中原の洛陽に都を移  
した。

さらに鮮卑語の使用や民族衣装の  
着用を禁じ、姓を漢族風に改め(帝室  
拓跋氏は元氏へ)、漢族との通婚を  
奨励するなど、一連の民族融和策を  
推進した。



# 漢文化への対抗と諸民族の統合・共生のための仏教



敦煌石窟の造営開始(366年頃)

北魏で漢人勢力の策略による仏教弾圧(446年)

北魏が国家事業として雲崗石窟造営(460頃)

北魏が洛陽に遷都し、竜門石窟造営(493年頃)

バーミヤーン石窟

敦煌石窟の造営開始(366年頃)

雲崗石窟の造営開始(460年頃)



北朝  
(北魏)

南朝  
(齊)

アジャンタ石窟

竜門石窟の造営開始(493年頃)

CCTV 高清

故宫至宝 5

對曰既卜世靈長願欲傳之來葉高祖曰若然必須改作卿等當各從之不得違也禧對曰上命下從如風靡草高祖曰自上古以來及諸經籍焉有不先正名而得行禮乎今欲斷諸北語一從正音年三十以上習性已久容或不可卒革三十以下見在朝廷之人語音不聽仍舊若有故為當降爵黜官各宜深戒如此漸習風化可新若仍舊俗恐數世之後伊洛之下復成被髮之人王公卿士咸以然不禧對曰實如聖旨宜應改易高祖

曰朕嘗與李冲論此冲言四方之語竟知誰是帝者言之即為正矣何必改舊從新冲之此言應合死罪乃謂冲曰卿實負社稷合令御史牽下冲免冠陳謝又引見北魏の民族融和策の一民族語の廢止見前「いま鮮卑語を廢止し、すべて漢語に改めたい。三十歳以上の者はすでに旧来の習慣が長いためすぐに改めずともよいが、三十歳以下でいま朝廷にいる者は旧来の言葉(鮮卑語)を用せぬこと。あえて使用した場合は、爵位を下げ、官職を罷免する。」



第五節 儒教と仏教

A topographical map of China is shown, divided into two regions: the Northern Dynasties (北朝) in the north, shaded in green, and the Southern Dynasties (南朝) in the south, shaded in brown. A large yellow question mark is superimposed over the border between the two regions. The map also shows the surrounding seas and parts of East Asia.

仏教はやがて漢民族にも広く受け入れられていった。それは儒教には解決できない問題があったからであるという。その問題とは何か？

① 救済の対象を一部の特権階級に限る封建的思想

② 死後の審判による心の救済

## 心の救済としての宗教

秩序ある平和な世界を築くため、  
儒教は人々に正しく生きること  
を求めた。

しかし、正しく生きた人間が、  
必ずしも幸福になれるわけではない。  
善人にも悪人にも等しく訪れる死。  
その死後、人はどうなるのか。宗教  
ではない儒教は、それに答えること  
ができなかった。

後漢末から魏晋南北朝時代へと続  
く戦乱の中で、人々は宗教である仏  
教に心の救済を求めたのである。



儒教の死生観

(孔子の弟子の)子路が鬼神(死者の霊)にはどう仕えるべきかとたずねた。

孔子は答えていった。

「まだ生きている人にどう仕えるべきかもわからないのに、どうして鬼神への仕え方などわかるうか」

子路はさらに死についてたずねた。

孔子は答えていった。

「まだどう生きればよいかもわからないのに、どうして死のことなどわかるうか」

非其厚葬故云耳 死門人欲厚葬之者門人顔淵曰不可者禮貧富有宜顔淵貧而門人欲厚葬之也 子路曰不可也門人厚葬之者初咨孔子孔子不聽之曰不可也門人厚葬之也子曰回也視子猶父也若此下孔子非其厚葬之語也言回也師事於已視已猶如其父也予不得視猶子也者言回自有父存父意欲聽門人厚葬我不得割止之故曰予不得視猶子也非我也夫二三子也者言厚葬之事非我所為夫門人二三子為之也非其厚葬故云耳

季路問事鬼神子曰未能事人焉能事鬼曰敢問死曰

未知生焉知死

陳曰鬼神及死事難明語之無益

故不答

季路至知死正義曰此章明孔子不道無益之語也子路問事鬼神者對則天曰神

人曰鬼神散則雖人亦曰神故下文獨以鬼答之子路問承事神其理何如子曰未能事人焉能事鬼者言生人尚未能事之况死者之鬼神安能事之乎曰敢問死者子路又曰敢問人之若死其事何如曰未知生焉知死者孔子言女尚未知生時之事則安知死後乎皆所以抑止子路也以鬼神及死事難明又語之無益故不答也



天道は是か非か？

〔解説〕

善行を続けながらも不幸な死を遂げた者もいる。悪行の限りを尽くしながらも天寿を全うした者もいる。

歴史の著述を通じて、人間世界の不条理に疑問を懐いた司馬遷は、『史記』の中でこう慨嘆している。

「天道は是か非か？」

（史記卷六一伯夷列傳）

天道は是か非か？

或いは曰く「天道に親無し。常に善人と与にす」と。

伯夷・叔齊のごときは、善人と謂うべきに非ずや。仁を積み、行いを潔くすることかくのごときにして餓死す。

七十子の徒、仲尼、独り顔淵を薦めて学を好むと為す。然るに回やしばしば空しく、糟糠に厭きずして、卒に早夭す。天の善人に報い施すこと、それ何ぞ如かんや。

木主號爲文王東伐紂伯夷司馬遷『史記』卷六一伯夷伝

戈可謂孝乎以臣弑君可謂仁乎左右欲兵之太公曰此異人也扶而去之武王已平殷亂天下宗周而伯夷叔齊恥之義不食周粟隱於首陽山馬融曰首陽山在河東蒲坂華山之北河曲之中采薇而食之及餓且死作歌其辭曰登彼西山兮采其薇矣以暴易暴兮不知其非矣神農虞夏忽焉沒兮我安適歸矣于嗟徂兮命之衰矣遂餓死於首陽山由此觀之怨耶非耶或曰天道無親常與善人若伯夷叔齊可謂善人者非耶積仁絜行如此而餓死且七十子之徒仲尼獨薦顔淵爲好學然回也屢空糟糠不厭而卒蚤天天之報施善人其何如哉盜跖日殺不辜肝人之肉暴戾恣睢聚黨數千人橫行天下竟以壽終皇覽曰盜跖冢在河東大陽臨河曲直弘農華陰山潼鄉盜跖即柳下惠弟也是遵何德哉此其尤大彰明較

著者也若至近世操行不軌專犯忌諱而終身逸樂富厚累世不絕或擇地而蹈之時然後出言行不由徑非公正不發憤而遇禍災者不可稱數也余甚惑焉儻所謂天道是邪非邪子曰道不同不相爲謀亦各從其志也故曰富貴如可求雖執鞭之士吾亦爲之鄭玄曰富貴不可求而得之當修德以得之若於道可求而得之者雖執鞭職我亦爲之如不可求從吾所好孔安國曰所好者古人之道

天道は是か非か？

ある人はいう「この世を主宰する）  
天の道は平等であり、いつも善人の  
味方だ」と。

ならば伯夷・叔齊は、善人ではな  
かったのか。あれほど仁を積み、行  
いを潔くしたのに餓死してしまった。

孔子が七十人いた弟子の中でもと  
あった。彼は貧しく、ろくな食事も  
とれずに夭折した。天は善人に対し  
てなぜそのような報いをするのか。

木主號爲文王東伐紂伯夷司馬遷『史記』卷六一伯夷伝

戈可謂孝乎以臣弑君可謂仁乎左右欲兵之太公曰此異人也

扶而去之武王已平殷亂天下宗周而伯夷叔齊恥之義不食周

粟隱於首陽山馬融曰首陽山在河東蒲坂華山之北河曲之中采薇而食之及餓且死作歌其

辭曰登彼西山兮采其薇矣以暴易暴兮不知其非矣神農虞夏

忽焉沒兮我安適歸矣于嗟徂兮命之衰矣遂餓死於首陽山由

此觀之怨耶非耶或曰天道無親常與善人若伯夷叔齊可謂善

人者非耶積仁絜行如此而餓死且七十子之徒仲尼獨薦顏淵

爲好學然回也屢空糟糠不厭而卒蚤天天之報施善人其何如

哉盜跖日殺不辜肝人之肉暴戾恣睢聚黨數千人橫行天下竟

以壽終皇覽曰盜跖冢在河東大陽臨河曲直弘農華陰山潼鄉盜跖即柳下惠弟也是遵何德哉此其尤大彰明較

著者也若至近世操行不軌專犯忌諱而終身逸樂富厚累世不

絕或擇地而蹈之時然後出言行不由徑非公正不發憤而遇禍

災者不可稱數也余甚惑焉儻所謂天道是邪非邪子曰道不同

不相爲謀亦各從其志也故曰富貴如可求雖執鞭之士吾亦爲

之鄭玄曰富貴不可求而得之當修德以得之若於道可求而得之者雖執鞭職我亦爲之如不可求從吾所好孔安國曰所好者古人之道

天道は是か非か？

盜跖(とうせき)は日に不辜を殺し、人の肉を肝にし、暴戾恣睢(ぼううれいしき)、党を聚むること数千人、天下に横行するも、竟に寿を以て終る。

是れ何の徳に遵(したが)うや。

余甚だ惑へり。儻(ある)いは所謂天道是か、非か。

司馬遷『史記』卷六一伯夷伝

木主號爲文王東伐紂伯夷叔齊叩馬而諫曰父死不葬爰及于  
戈可謂孝乎以臣弑君可謂仁乎左右欲兵之太公曰此異人也  
扶而去之武王已平殷亂天下宗周而伯夷叔齊恥之義不食周  
粟隱於首陽山馬融曰首陽山在河東蒲坂華山之北河曲之中采薇而食之及餓且死作歌其  
辭曰登彼西山兮采其薇矣以暴易暴兮不知其非矣神農虞夏  
忽焉沒兮我安適歸矣于嗟徂兮命之衰矣遂餓死於首陽山由  
此觀之怨耶非耶或曰天道無親常與善人若伯夷叔齊可謂善  
人者非耶積仁絜行如此而餓死且七十子之徒仲尼獨薦顏淵  
爲好學然回也屢空糟糠不厭而卒蚤天天之報施善人其何如  
哉盜跖日殺不辜肝人之肉暴戾恣睢聚黨數千人橫行天下竟  
以壽終皇覽曰盜跖冢在河東大陽臨河曲直弘農華陰山潼鄉盜跖即柳下惠弟也是遵何德哉此其尤大彰明較

著者也若至近世操行不軌專犯忌諱而終身逸樂富厚累世不  
絕或擇地而蹈之時然後出言行不由徑非公正不發憤而遇禍  
災者不可稱數也余甚惑焉儻所謂天道是邪非邪子曰道不同  
不相爲謀亦各從其志也故曰富貴如可求雖執鞭之士吾亦爲  
之鄭玄曰富貴不可求而得之當修德以得之若於道可求而得之者雖執鞭職我亦爲之如不可求從吾所好孔安國曰所好者古人之道

天道は是か非か？

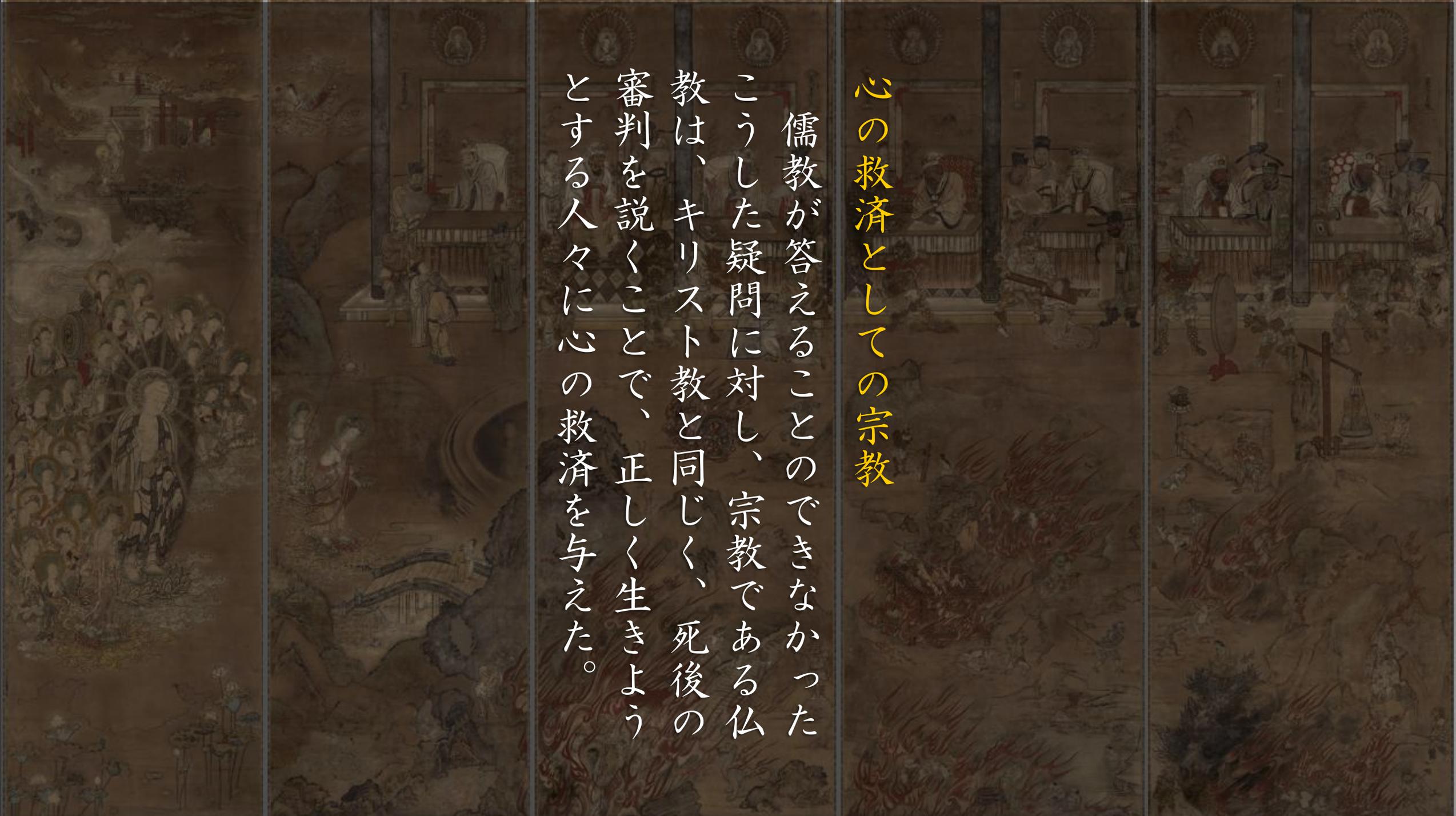
盗跖(とうせき)は毎日のように罪なき人を殺し、人肉を喰らい、乱暴の限りを尽くし、数千人で徒党を組んで、天下を荒らしたが、ついに天寿を全うした。彼にどのような徳があつたというのか。

私には理解できない。いったい(この世を主宰する)天の道とは、本当に正しいものなのだろうか。

司馬遷『史記』卷六一伯夷伝

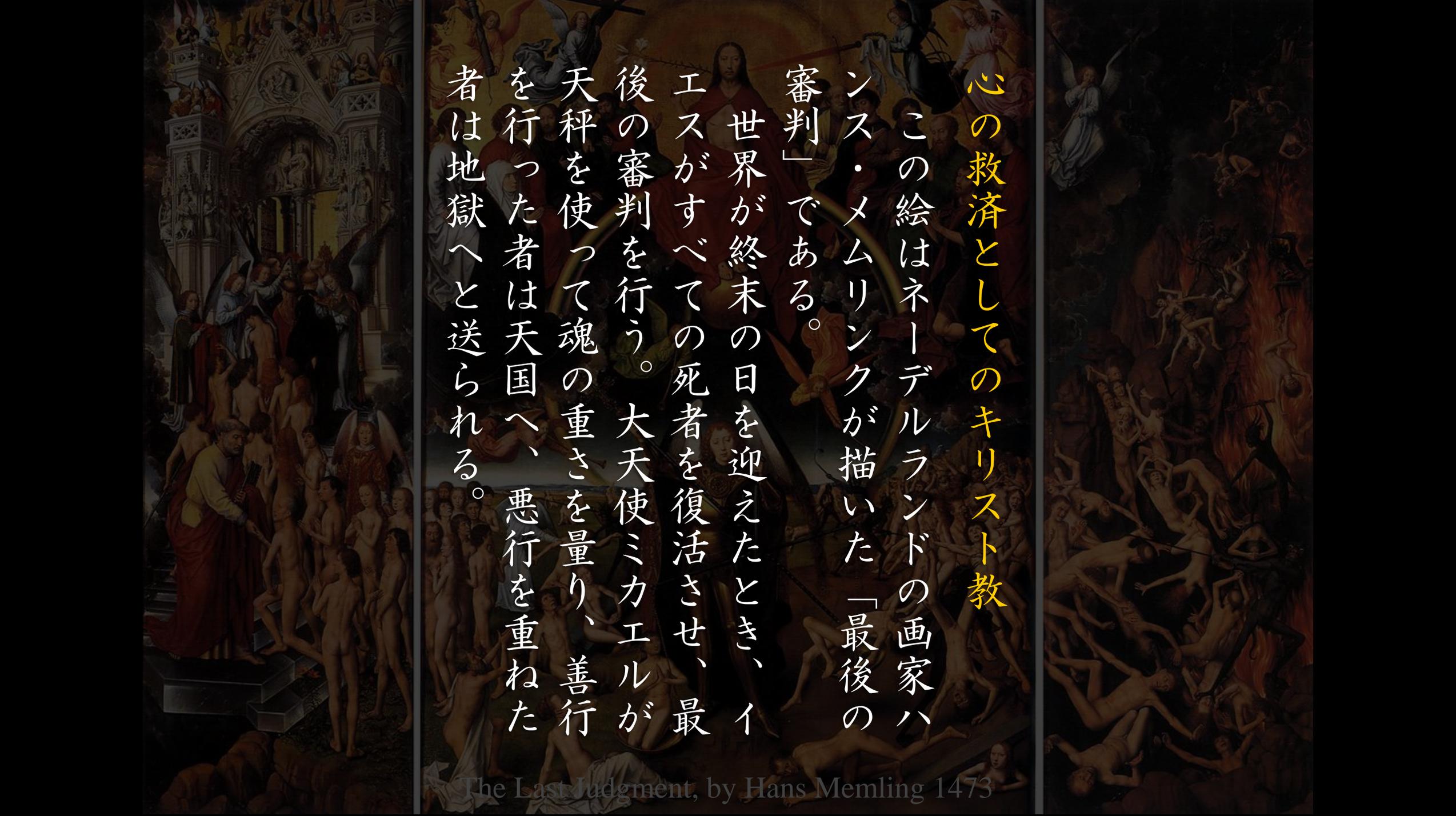
木主號爲文王東伐紂伯夷叔齊叩馬而諫曰父死不葬爰及于  
戈可謂孝乎以臣弑君可謂仁乎左右欲兵之太公曰此異人也  
扶而去之武王已平殷亂天下宗周而伯夷叔齊恥之義不食周  
粟隱於首陽山馬融曰首陽山在河東蒲坂華山之北河曲之中采薇而食之及餓且死作歌其  
辭曰登彼西山兮采其薇矣以暴易暴兮不知其非矣神農虞夏  
忽焉沒兮我安適歸矣于嗟徂兮命之衰矣遂餓死於首陽山由  
此觀之怨耶非耶或曰天道無親常與善人若伯夷叔齊可謂善  
人者非耶積仁絜行如此而餓死且七十子之徒仲尼獨薦顏淵  
爲好學然回也屢空糟糠不厭而卒蚤天天之報施善人其何如  
哉盜跖日殺不辜肝人之肉暴戾恣睢聚黨數千人橫行天下竟  
以壽終皇覽曰盜跖冢在河東大陽臨河曲直弘農華陰山潼鄉盜跖即柳下惠弟也是遵何德哉此其尤大彰明較

著者也若至近世操行不軌專犯忌諱而終身逸樂富厚累世不  
絕或擇地而蹈之時然後出言行不由徑非公正不發憤而遇禍  
災者不可稱數也余甚惑焉儻所謂天道是邪非邪子曰道不同  
不相爲謀亦各從其志也故曰富貴如可求雖執鞭之士吾亦爲  
之鄭玄曰富貴不可求而得之當修德以得之若於道可求而得之者雖執鞭職我亦爲之如不可求從吾所好孔安國曰所好者古人之道



## 心の救済としての宗教

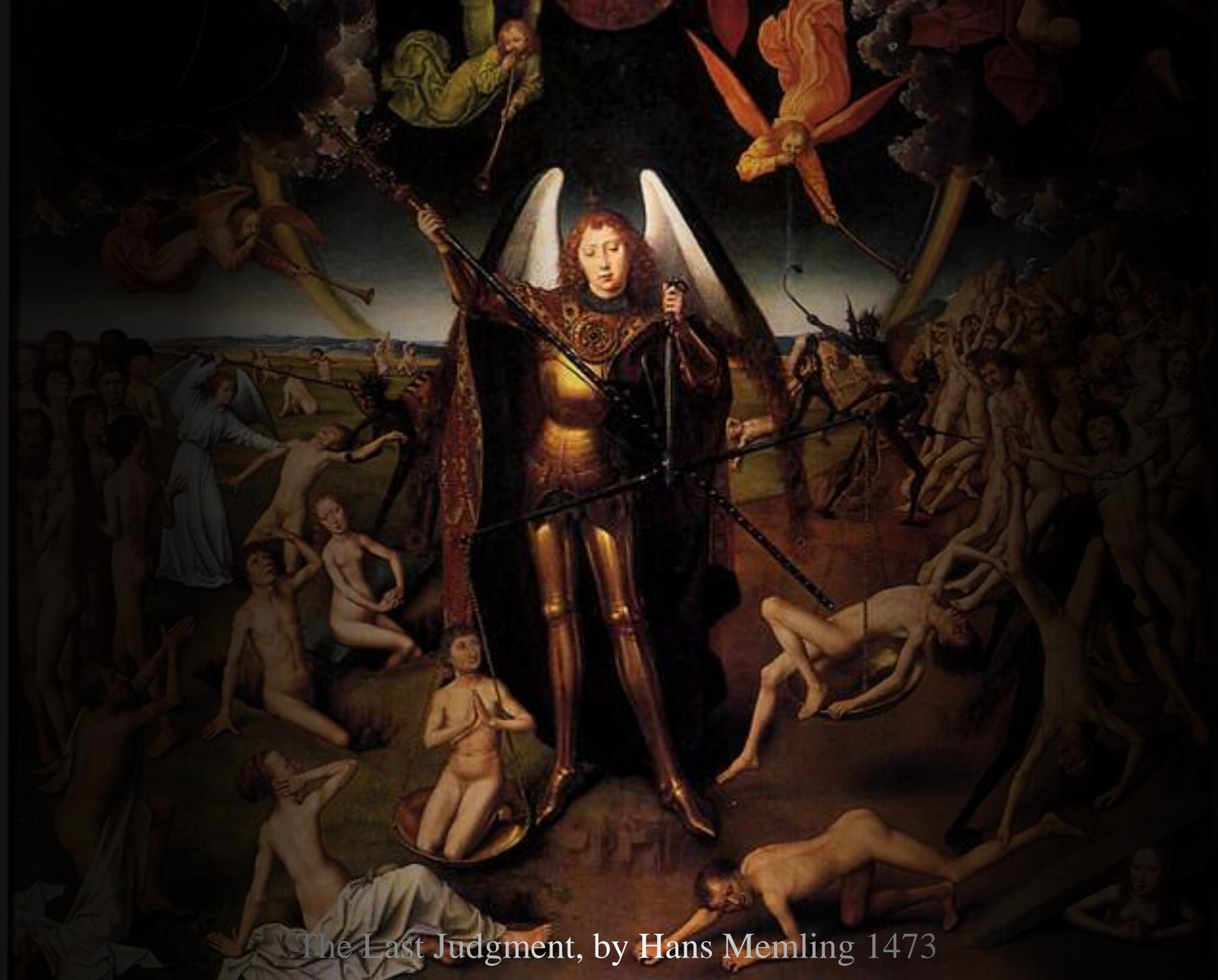
儒教が答えることのできなかつた  
こうした疑問に対し、宗教である仏  
教は、キリスト教と同じく、死後の  
審判を説くことで、正しく生きよう  
とする人々に心の救済を与えた。



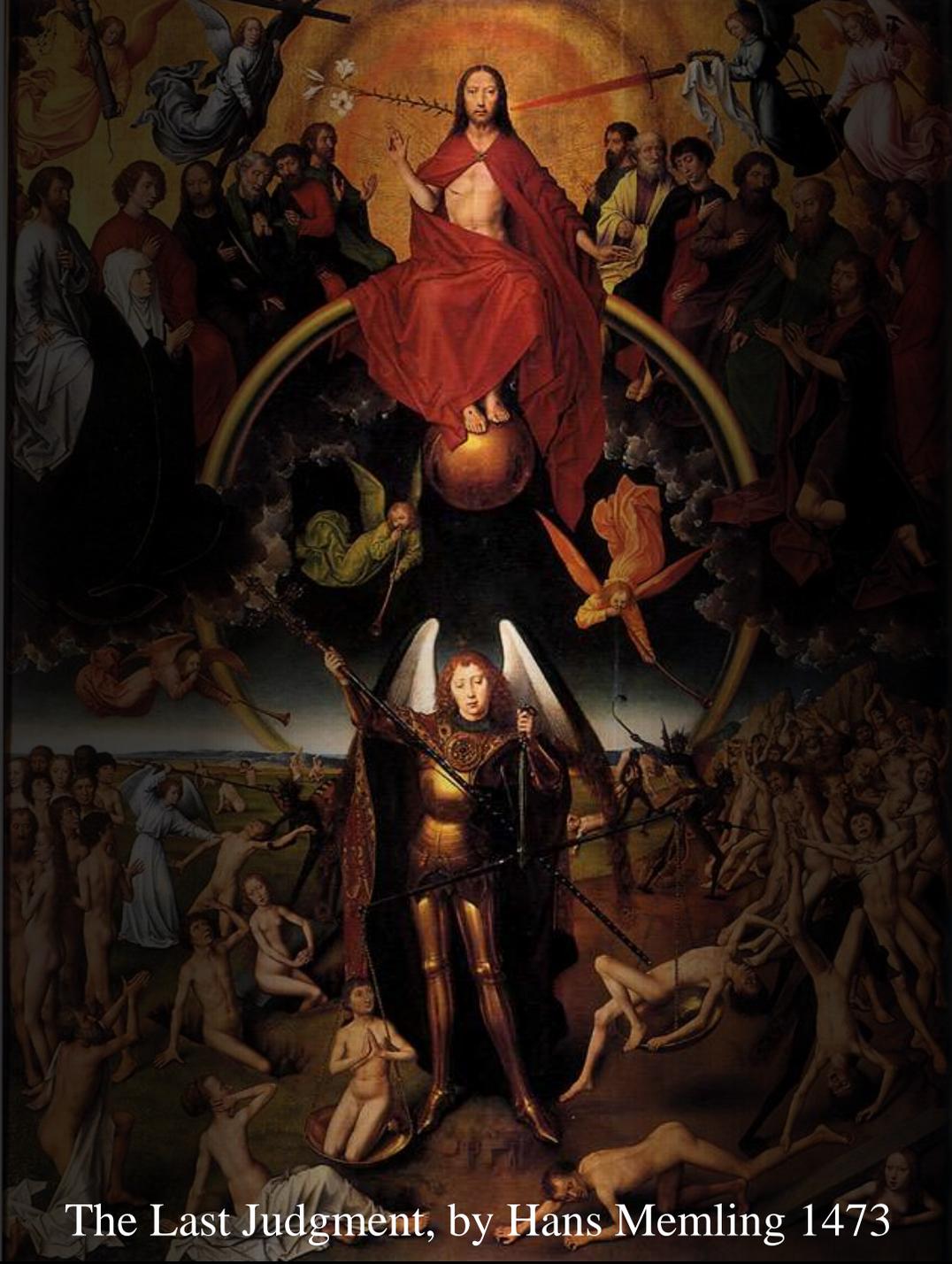
心の救済としてのキリスト教

この絵はネーデルラントの画家ハンス・メムリンクが描いた「最後の審判」である。

世界が終末の日を迎えたとき、イエスがすべての死者を復活させ、最後の審判を行う。大天使ミカエルが天秤を使って魂の重さを量り、善行を行った者は天国へ、悪行を重ねた者は地獄へと送られる。



The Last Judgment, by Hans Memling 1473



The Last Judgment, by Hans Memling 1473

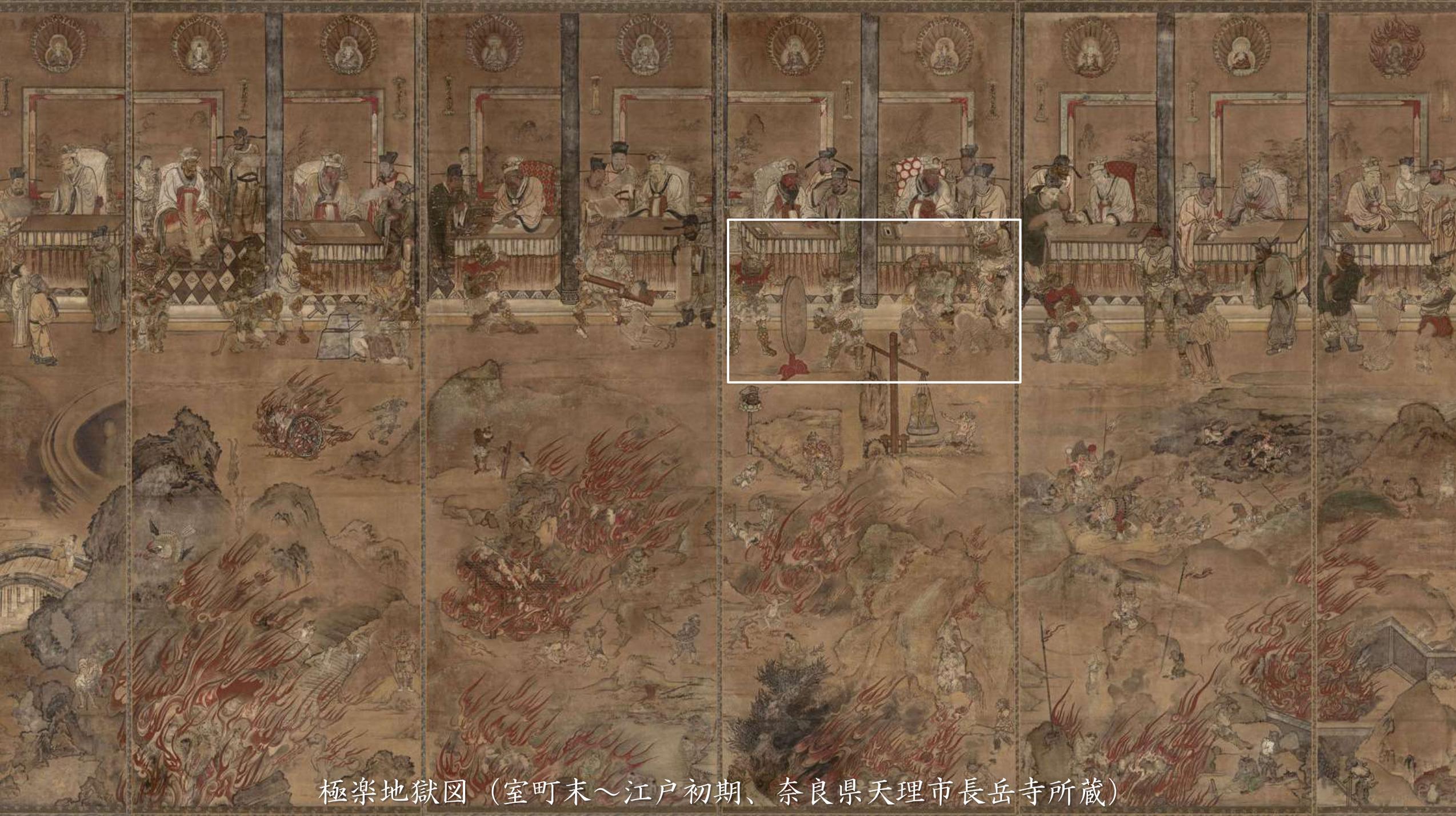
## 心の救済としての仏教

この絵は、室町時代の末から江戸時代の初めに描かれた「大地獄図」である。

人は死後、初七日から七七日（中陰）を経て三回忌に至るまで、十王による計十回の裁判を受け、善行を行つた者は極楽往生することができ、悪行を重ねた者は地獄の責め苦を受け続けることになる。



極樂地獄図 (室町末～江戸初期、奈良県天理市長岳寺所蔵)



極楽地獄図 (室町末～江戸初期、奈良県天理市長岳寺所蔵)



浄玻璃鏡に映し出される生前の悪行



重要文化財 (元) 閻羅王図 (『十王図』の一、奈良国立博物館蔵)



極楽地獄図 (室町末~江戸初期、奈良県天理市長岳寺所蔵)



初七日から七七日（中陰）を経て三回忌に至るまで十回の裁判を経て、死者の行き先が決定される

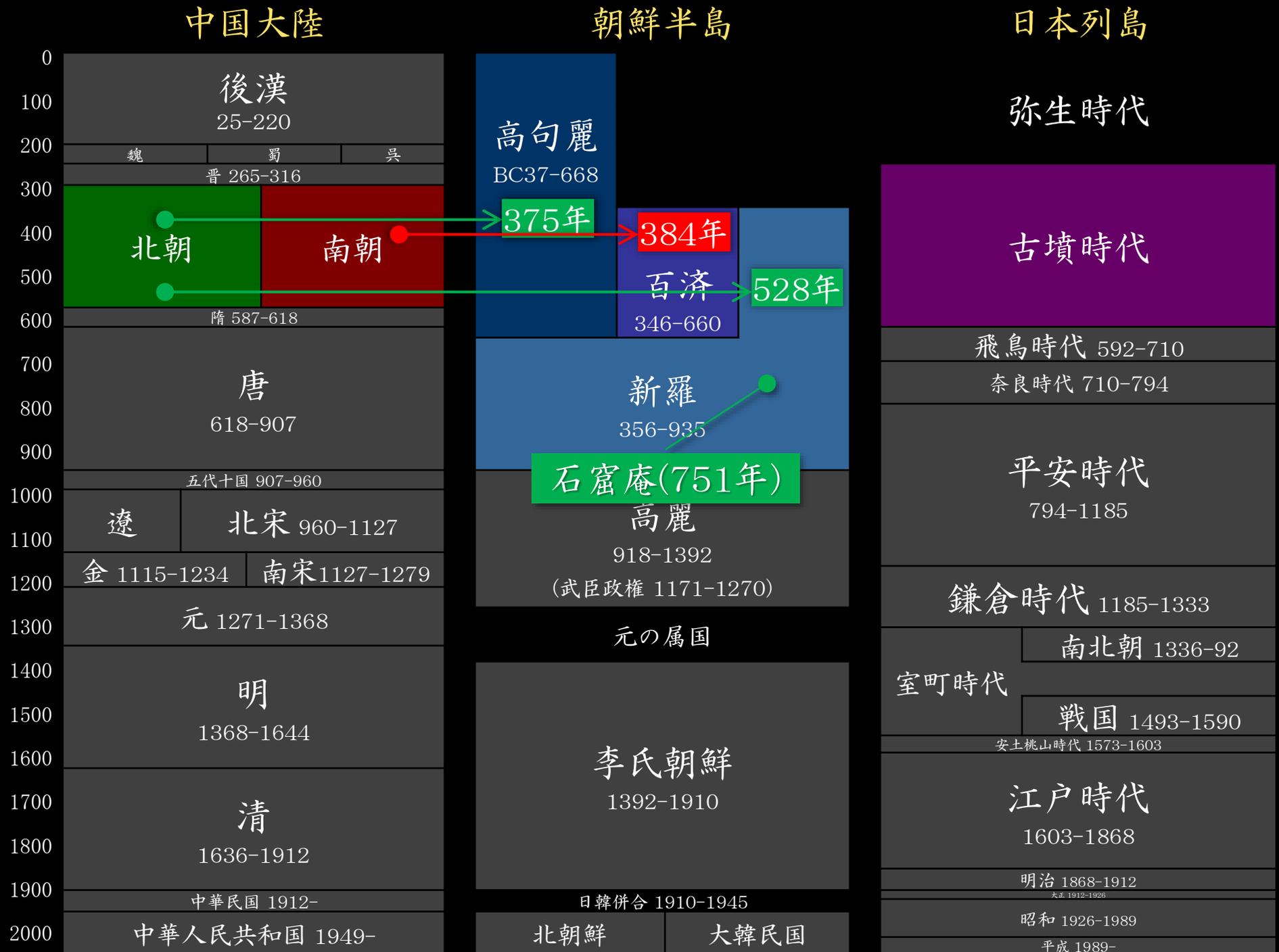
The image features three Buddhist statues set against a dark, intricately carved background. The central figure is a seated Buddha with a serene expression, wearing robes that fall in stylized, rounded folds. He is flanked by two standing figures, likely Bodhisattvas, dressed in more elaborate, layered robes. The background is a dark metal or stone surface with deep relief carvings of swirling patterns and smaller, seated figures. The lighting is dramatic, highlighting the textures of the statues and the background.

第六節 東アジアの世界宗教



これは東アジアに造られた仏教石窟の一つである。どこの国の石窟か？

仏教の朝鮮半島への伝播



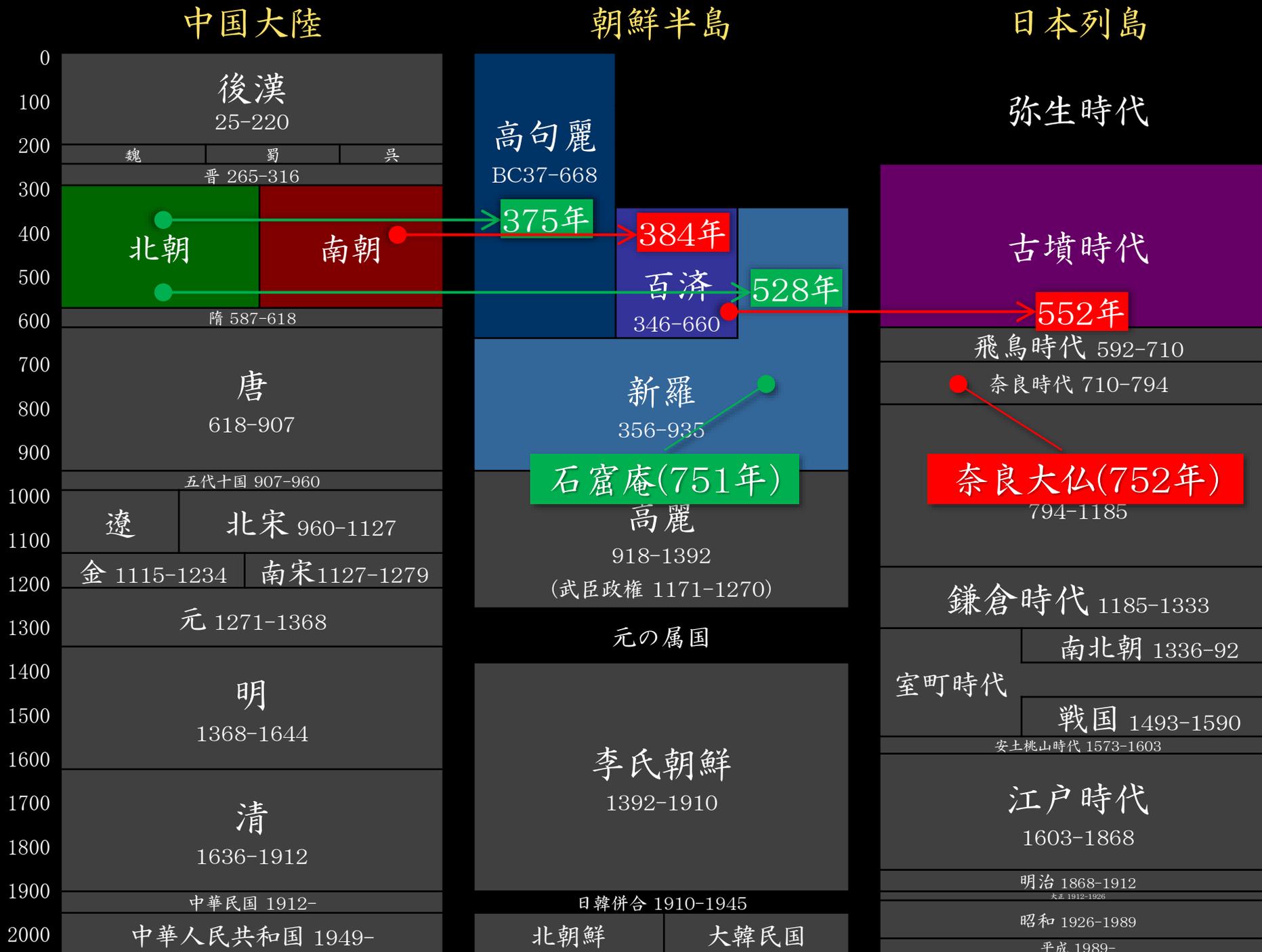
新羅石窟庵を建立(751年)





韓国慶州に建立された仏教石窟「石窟庵」(CGによる再現映像)

仏教の日本への伝播



## まとめ

■ ヒエロニムス(三四七頃～四二〇)がヘブライ語やギリシア語で書かれた聖書の原典をラテン語に翻訳していたところ、中国の北朝では西域僧の鳩摩羅什(クマラージヴァ、三四四～四一三)が後秦の都・長安に招かれ、仏教經典の翻訳に当たっていた。

■ サンスクリット語で書かれた仏教經典が、東アジアの共通語である漢語に翻訳されたことにより、南北朝から隋、唐時代にかけて、仏教は東アジアの世界宗教へと発展していく。

■ 仏教は四世紀には朝鮮半島の高句麗や百済、六世紀には新羅や日本に伝わり、東アジアの人々に心の救済を与えた。